

博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	大阪大学	申請大学長名	平野俊夫
申請類型	複合領域（多文化共生社会）	プログラム責任者名	星野俊也
整理番号	L02	プログラムコーディネーター名	志水宏吉
プログラム名	未来共生イノベーター博士課程プログラム		

＜プログラム進捗状況概要＞

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本事業の目的は、5年間の首尾一貫したコンセプトとカリキュラムのもとで、国際的および国内的な文脈における「多文化共生社会の実現」を導くグローバル人材（＝未来共生イノベーター）を輩出することにある。未来共生イノベーターとは、自らのコアとなる専門分野で博士レベルの高度で専門的な知識を有するとともに、他者に対する深い理解をともなう敬意（respect）にもとづき、共通の未来に向けた斬新な共生モデルを創案・実現できる知識・技能・態度・行動力を備えた実践家・研究者のことである。このプログラムは、本学全体の研究・教育を統括する目的から設置された大阪大学未来戦略機構の第五部門という位置づけを有しており、「地域に生き、世界に伸びる」とモットーとする本学の今後の研究・教育を先導する役割を期待されている。

2. プログラムの進捗状況

本プログラムは順調な進展を遂げている。学内外の約50名をプログラム担当者とし、その中心に運営統括会議を組織した。そして、そのもとに「財務・人事」「選抜・審査」「評価・広報」「教務」「学生支援」「国際連携」「産官学連携」の7つのワーキンググループを継続的に稼働させ、仕事を進めた。平成25年度4月に17名の第一期履修生を迎え入れ、14名の特任教員（教授3、准教授1、常勤講師1、助教9）が、それぞれの担当分野で学生の教育にあたった。一年を経てアカデミックワーク、プラクティカルワーク（コミュニティ・ラーニング、公共サービス・ラーニング）が計画どおり進められ、国内外に開設したサテライト・オフィス（国内：岩手県野田村、国外：インドネシア・ガジャマダ大学、ザンビア・コッパーベルト大学）が実地における教育・研究拠点として有効に利用された。プログラムの発信として未来共生セミナーの実施と報告書の作成、「未来共生学」の構築に向けたアカデミックな場としてRESPECTトークの開催、その集大成としての機関誌『未来共生学』が創刊された。